

ホットラインの電話が鳴った。高速道路で大型バスが横転、けが人多数、レスキュー隊が救出中との一報だ。病院長は直ちに災害対策本部を設置した。緊急速結で医師、看護師、事務員らが外来に集結、玄関ホールを区域に分け人員を配置していく。けが人に最初に接触する振り分けエリア、生命の危機



徳島大病院ER・災害医療診療部 今中 秀光 特任教授

のあるけが人を治療する赤色エリアではすでに怒号が飛びかう。移送用ベッド、資器材が続々運び込まれ、黄、緑、黒、各エリアの緊張が高まる。数分後、救急車が列をなして到着した……。

これは、昨年の災害対策訓練のあらすじです。災害は大型交通事故・爆発事故などの人為災害、台風・地震などの自然災害に分けられます。どんな災害がいつ起きるか予測できません。しかし想定外が少しでも減るよう徳島大病院は準備を進めています。

「いい、皆さんにお願いがあ

ります。ご自身の過去の病気、飲んでいるお薬リストを避難用物品の中に入れておきましょう。万が一避難することになった際、この情報はとても助かります。災害医療では突然同時に多数の傷病者が発生し、マシナリーや資器材の不足した状況下で、いかに効率的で適切な医療を提供するかが課題となります。病気の情報、お薬リストは限られた資源の有効利用にとっても役立ちます。

想定外を減らすための災害医療訓練

徳島大病院は

災害拠点病院に指

定される前から、

いろいろな想定で

訓練を続けていま

す。揮発性の劇毒

物が汚染されたけ

が人が多数発生し

た想定の実演は仕

観です。駐車場に

巨大な除染テント

を立ち上げ、宇宙

服のような防護服

を着たスタッフが

温水シャワーでけ

が人を洗浄しま

す。一方、自然災

害では病院自体

が被災する可能

性を考えなければ

なりません。避難

誘導、応急救護、

職員・患者の安

否確認を行う訓練

を繰り返してい

ます。大規模災害時には病院

間、行政機関、消防などとの

連携が大切となります。これら

訓練を通じ、災害医療の重要

さを職員全員が実感し、レベル

を向上させることを目指してい

ます。